

眞宗安心大要

眞實院大藏師亮師西念寺諦忍師 實價三錢 郵稅貳錢

右は眞宗安心の大法難たる。新義古義惑亂の
際師亮師諦忍師安心の大綱を。寺社奉行所へ
差出されたる控書なり。而して更に御裁斷御
消息。並に其當時審判の師亮師及び西念寺
諦忍師。彼の三業の主唱者智洞と。寺社奉行
の官廳に於て。問答往復し流離艱難。遂に
他力安心の骨目。凡夫往生の眞因を明にせ
られし官廳問答日記を加ふ。其問答たる眞宗
の教義に關き後人衆にまで。眞宗安心の義理
を明解せらるる様述べられしものにて一言
一句安心の血肉にあらざるはなし。是れ實に
兩師の丹精。即ち他力信心より流出せし明答
にして審判しつゝ遂に眞宗安心を。受得せし
役人ありと聞く。

眞宗明治法輪集

眞宗 每百半頁 實價三錢 郵稅貳錢

機を見て法を説くとは佛敎の通規あり。昨日
は今日の昔なり。昔のこゝを以て今日に適用
せんとするも古昔の譬喩因縁。往々不稽にし
て開明の今日に。適用しがたきものあり。此
書は現今最も大家と稱せられ碩徳と仰がれ明
治の人民を教化し來れる雄編を集録し。一は
以て之を永遠に保存し。一は以て法味愛樂の
助縁とせばやと思ひ。編を累ね集結せんとす
其が第一集には
大洲鐵然師 赤松運城師 福田行忍師 足利義山師
島地默雷師 七里恒順師 南條文雄師 廣藤開晴師
松島蓬海師 吉谷覺春師 香川法見師 栗瀬我聞師
の法話。説教なり。月の如く明かに。雪の如
く潔く。花の如く艶かなる。此の良書に接せ
られよ。得る所大ならむ。

興教書院發行並發賣廣告

●僧俗五大鼓吹一時申込特別減價

通俗 五大鼓吹 全

特別減價金五圓也

●外に小包郵税三百里以外金七十九圓●三百里迄金
七十一圓●二百五十里迄金六十四圓●二百里迄金五
十六圓●一百五十里迄金四十九圓●百十里迄金四十二圓●八
十里迄金三十六圓●六十里迄金廿九圓●四十里迄金廿
三圓●二十里迄金十七圓
●小包里數ハ其地方郵便局ニテ御開合ノリ

●淨土三部妙典鼓吹 全三冊●紙數 三千二百餘頁

●五帖一部御文鼓吹 全一冊●紙數 千四百餘頁

●正信念佛偈鼓吹 全一冊●紙數 三百餘頁

●安心決定鈔鼓吹 全一冊●紙數 二百五十餘頁

●善惡因果經鼓吹 全一冊●紙數 六百餘頁

●五大鼓吹總ひらかあつき

右通俗五大鼓吹ハ何れも佛敎者(特に眞宗僧俗)の一大寶典とし座側に缺べからざる良書あ
か而して三部經。御文章鼓吹は元東京興教書院にて出版せられ非常の高評にて既に二版三
版を發行せし處都合により紙型並に殘本一切弊院に讓受候。に付前題の通り五大
鼓吹弊院に於て全く全備す隨て代金も安價に仕り候間精々御注文被下候

●尙五大鼓吹の内別々御注文の諸公は左の通りの實價

●淨土三部妙典鼓吹 三冊

實價金三圓卅錢郵稅金四十四錢

抑も淨土三部妙典は、釋尊一代諸經中、出世の本懐たる、妙經にして其數僅かに三部あるも、實に入難海を度するの津梁、四魔軍を破るの秘策、功德聚の寶囊、平等性の神器、恐くは此經に如くものなし、然るに淨土門に浴流せらる、諸氏中、此經意を了解し詠味せらる、人甚だ稀なり、誠に遺憾のみならず、彼外教者が自の所依とするところの「バイブル」を、能く熟解し居るに比すれば、既數次第に候はずや、然りと雖も此經を一通り聽講せんとするも、又一朝一夕の事に非ず、今此三部妙典鼓吹は、文章は至極平和にして、一讀の下に能く經の深意を、了解し得らる、良書なり、

●五帖一部御文鼓吹 一冊

一名眞宗安心龜鑑 (總ひらかなつき)

ありしも、原版は焼失して今はなし、弊院幸に或師より、一本を得たれば、茲に縮刷す、譬喩因縁の多きは同師の特意なり、幸に一本を購讀せられよ

●通正信念佛偈鼓吹 一冊

實價金二十八錢郵稅金四錢

當流に流を汲ひ信者朝夕拜讀し奉る正信偈は句の數百二十、行數六十行にして三朝高僧の解釋により眞宗の要義大綱を明すと雖其理深くして容易に了解しかたし之に依て古より註釋するもの其數を知らず然れども昔學問的にして通俗に註解するもの少し今此の書は譬喩因縁等を交へ通俗に了解し得らるる良書なり

●通善惡因果經鼓吹 全一冊

一名因果經龜鑑 (金文字入上等製)

實價金六十錢郵稅金十錢

因果の理法は整然として違ふし、其赫たること日月の如く、其堂たること山嶽の如し、天地と並ひ存し、乾坤と並ひ立つ、而して善因樂

實價金一圓五十錢郵稅金二十錢

眞宗安心の鏡は、八代目中興蓮如上人の御製作、御文章八十通を以て第一とす、今此鼓吹ハ、御文八十通の、文々句々の深旨を探り、難所を解し、細大遺す所なく、平易に誰人にも解し得る様、大學林教授補教姫宮大圓師が、多年の間苦辛を以て明燈鈔、記事珠、畧纂、開持記及び師の自説を、編述せられたる、今古未嘗有の寶典あれば、此の鼓吹によりて、朝夕拜讀する、御文の御教訓を窺へば、明なる鏡に向ふ如く、自力雜毒の汚染は能く見へ申候、

●通安心決定鈔鼓吹 一冊

實價金二十四錢郵稅金六錢

蓮如上人は安心決定鈔のこと、四十餘年か間御覽候へども、御覽しあかねと仰られ候、又金をほり出す様なる聖教なりと仰られ候、又常流の義は安心決定鈔の義、いよく肝要なりと仰られ候、か様ある大切の御聖教なれば、人たやすく之を講せず、然るに三部經鼓吹等を釋せられし、釋了意師の安心決定鈔鼓吹八卷

果、惡因苦果の光景を見る如く説示せるは因果經にあり、之を演繹し幾多譬喩と幾多因縁を挾みたるは鼓吹也

●島地隱雷師通辭松村海印師述 二種深信講話

實價拾六錢郵稅金四錢

全席三十〇目次は零す●信機信法の二種深信は、實に一宗安心の大關節にして、道俗細素を論せず、苟も領解の正邪を糺さんとするに至ては、必ず此釋を以て模範とせざるはあし、而して世上尙ほ其奥義を、平和に演暢したるもの稀れなり、此著偶々改良説教の趣意に基き毎席の趣嚮を豫定し、往々譬喩因縁を引き來り、尤も平易に辨述せられたる者なれば實地布教上甚だ使用の良書とす

●松村翠濤師口演 説教譬諭摘辯

實價十五錢 郵稅二錢

目次〇第一、聞之得失〇第二、宿善熟否〇第三機縁投合〇第四、疑惑爲障〇第五、乘彼願力〇

第六、遠慮疑信〇第七、信即佛智〇第八、慈悲無化〇第九、餘念簡捨〇第十、忘念不簡〇第十一、不斷煩惱〇第十二、功德圓滿〇第十三、平生決得〇第十四、發心難易〇第十五、領受一念〇第十六、信體離言〇第十七、光明照護〇第十八、現益具備〇第十九、知恩報德〇第二十任運修善

成就文講話

實價金十二錢 郵稅金二錢

本山憲業師題辭 旭恢思著
 本願成就文は釋迦出世の本懐、三世諸佛の本意、大經一部の概要、彌陀大悲の正意にして真俗二諦の妙經、凡夫往生の基礎、此外はあはからず、然れば内哲力を尽して、其蘊奥を採り深理を明らめらるゝと雖も、皆學解の徒のみ

に流れす高尚に失せず、而も席敷を若干に分ち、一席毎に確實なる因縁と、譬喩とを講じ、最も平易に解したる良書なり

成就文講話再演

定買二十錢 郵稅四錢

旭恢思著
 師先年說教演說の南針、法味愛樂の勸導に備へんとて、本願成就文講話を著はし、既に三版四版を重ね、以て有益なる書あることを證するに足るへし、今春以來師郷里に在て、向きの信徒の再請に應じ、復た成就文を講演す、書中演ふる所も、淺より深に入り、一層新可なる譬喩と、確實なる事實とを引用し、且つ席敷も前著に倍し、一層平易に詳細に、而も前講演に述ふる所も少しも重複せる所なく、同一様の事を語らず、實に別箇の新著書にして、亦前著の体を失はず、中に於ても安心門を演ふるか如き、其緊切にして領し易き、愈々出て、愈々妙、

真宗興由の辨

實價金八錢 郵稅金二錢

鳥地默雷師題辭 名和源海師著
 今や我本山は眞宗教會の組織を急がせられ、若々其歩を進む、然るに教會の組織に付て種々の疑を懷き、教會本部へ照會の人々少からざる由、故に淵海師に乞ひ諸師と協議の上、該教會設置の御旨意を説明し世に公にす、幸に御一讀の上、益々教會の擴張、即ち法義隆盛を計られんとす、教會御消息は巻首に、教會條例の教會規則の教會實施手續は巻尾に附す

安心法話聞書

實價十六錢 郵稅四錢

故勸學勞謙院善護師 生存の折、或篤信者に出離の要路を教示し、各自の疑網を解懸せしめたる法語あり、一辭一言、安心の血肉にあらざるを、それを補教行忍師隨聞隨記し、函底に藏まて印刷し、世に頒つものあり

眞宗安心

實價六錢 郵稅二錢

大州鐵然師題辭 宇勸學善護師可成師述
 三業戒亂の際金剛縛を著はして諸大學者をして口を閉ち舌を捲かしめたるは、在園勸學なり、東都に漂零すること多年、本書は師の安心及び安心に關する主筋を輯録せしものあれば、其氣韻は溢れて躍々又善護師のタノムの意、信心の意、二種深心の意等安心教草を載す

眞宗辨疑

實價金十二錢 郵稅金四錢

勸學足利義山師述 赤松連城師題辭
 右は眞宗安心上の疑問に對し、解し易き様一々問答解釋せしものなれば、各自領解の得否を照す明鏡なり其目次の二三を掲げば、○第一問 吾れ聞得たり故に往生治定なりと思ふ可否の疑、○第二問 往生治定の目的は信心にあるか願力にあるかの疑、○第三問 獲信の法方は勤めとて稱名すべし云へる可否の疑、○第四問 往生の一段何と無く底氣味悪く思はる疑等なり

一牧起請文演義録

實價二十四錢郵稅四錢

右書は有名なる、宣暢院師が黒谷上人、一牧起請御消息の義理を解し、且つ譬喩因縁等を引用して辨せられし者也、元と此書は是迄大本にて世に傳わりしも、今度諸師の求めに應じ、縮刷出版せし者なれば、説教者は勿論有信の諸氏は、一讀を要すべき良書也

芳淑院履善師序 赤松連城師引 和本木版
眞實院大藏師述 中山雷響師校 全二冊
眞宗 安心十論 實價二十六錢 郵稅四錢

師が在世中眞宗教義上に補益する處、實に少々にあらざるあり、彼の三業秘事の徒を降服せしめたるが如きは、眞宗宗徒の宜しく、記應すべき所なり、右安心十論は解し易き爲め數十條の問答体とし、安心を精密に辨解せし者にして、其良書たるは言を待たず、然るに該書元專精寺の秘藏に屬し、未だ梓に上らず

佐々木惠雲編 古徳法語集 第一編 實價十三錢 郵稅二錢

神代洞通編 古徳法語集 第二編 同

佐々木英鏡師原字 佐々木惠雲編 古徳法語集 第三編 同

佐々木惠雲編 古徳法語集 第四編 同

古徳法語集は出離生死の導師なり、古徳法語集は座右必携の經規なり、古徳法語集は僧俗共に必要書なり、古徳法語集は簡易き爲假名附なり、古徳法語集は説教演義の爲により、

二河白道講話

一名護信録

全一冊 實價金十 六錢 郵稅金四錢

此の二河譬講話は善導大師凡夫の貪欲廣患の煩惱を水火の二河に譬へ信心の白道を守護し玉ふ故に和讃に「定散二心ナピルカヘシ貪廣二河ノ譬喩ヲトキ弘願ノ信心守護セシム」とか、る眞宗安心に大關係ある大切なる御文を

志士の甚だ遺憾とする所なり、今度更に中山雷響師、十分校訂の勞を取られ、木版彫刻とせり

大洲鐵然師題辭 神代洞通師序文 (元名演義) 粟津義主師述 (元名演義)

御傳鈔講話

全二冊 實價金八錢 郵稅四錢

此の御傳鈔上下十五段は、第三宗主覺如上人報恩謝徳の爲、當流の法儀他力安心の深旨を聖人御一代の行化に寄せ、讃嘆せられたるものにして、聖人滅後七百餘年の今日、親り、聖人御在世の御行狀を、拜讀するを得、然るに其文簡短なれば、我々其委細を知る能はず、今此の講話は、義主師内典外典諸書を其涉え聖人御化導の事蹟、開宗の模様等、細大漏すなく、師の能辨博識を以て、誰れ人にも能く解する様、譬喩因縁を交へ、説教せられたるもの也、當宗に流を汲む者、此書を讀み聖人御一代の御辛勞を知り、益々法味愛樂の助縁とあされん事を乞ふ

誰れ人にも能く解する様譬喩因縁を用ひ面白く講話されたる良書なり

勸學遠照院了祐師述

二河譬略解 實價十五錢 郵稅四錢

赤松連城師題辭松島善海師序文釋慧晃師講述 再改悔文講話 實價六錢 郵稅二錢

改悔文は淨土眞宗中興上人の著述し玉ふ御詞にして一流安心の極致、教行信證の要義、この一章に攝在せり、釋慧晃師通俗に了解し易き様、深き趣旨のある所を、平易に講話せられしものあり

故女龍著

領解文問對和解 實價三錢 郵稅二錢

領解文を問答体とし一讀の下に他力易往の宗意を了解する良書あり

同第三編 粟津義主師述

四十八願喚鈔 實價廿六錢 郵稅六錢

右は師の能辨を以て大經四十八願を讃題とし一願々々に譬喩因縁を交へ説教せしもの也

説教學全書第一編 菅原智洞師述

勸導薄照 實價廿六錢 郵稅六錢

人智開發し宇宙百般の學、日々逐ひ歳を累とて、改良進歩するに共に、諸般の學術講究の方法、亦自ら迂濶の舊習を改め、務めて簡便に從ふんとす、是れ勢の自然なり、特に現今は活刷の便利大に開き、廣卷大冊のもの之を縮刷し、以て千里必携の要什とす、今此の説教學全書は、古今有名の説教を彙録し、以て古人説教の模範を示し、古きを蘊め、新しきを知り、益々教導の好材料を集め、編を逐ひ卷を積み、益々出版せんとするものあり、先其か第一編として、如達師勸導薄書を元本二十冊を訂正標註し縮刷全一冊とす、

説教學全書第二編 粟津義圭師述

帳中五十座法談合 實價廿六錢 郵稅六錢

右は義圭師が三經七祖の肝要の文を讀題として説教せられたる帳中五十座法談、卷懷五十座法談を訂正標註したる都合百座の説教長書されば座しなからにして聽聞せられ得るは實に此書にしかず

刷眞宗法要

紙數千 二百餘 ページ

和語眞宗法要は眞宗の寶典にして道俗その必要あることは今更喟々を要せざる也、唯從來の大本及び中本は卷冊多くして携帶に便からざれば、活刷の利器を應用して之を縮刻し携帶に便を與ふ、かつ活刷に附するに當りては殊更に專任の校正者を置き、龍谷藏版の大本に依據して校合に注意せしめ、卷尾の校異は閱覽に便ならしめんとて現文の上に標註とし句切點に注意し、大本の丁數に欄外に記入し字數まで「」を以て明かにし、宗義研究の節引用するに便からしむ、且つ購讀者の便宜を圖りて製本は左の三種に類らぬ

- 第一種 背皮金文字入 上等製全一冊 實價金七十五錢 郵稅は十八錢
- 第二種 四卷に類して 映入丹表紙を 實價金七十錢 郵稅は十八錢
- 第三種 四卷に類して 通製製本とす 實價六十錢 郵稅は十六錢

同第四編 粟津義圭師述

和讀卽席法談 實價廿六錢 郵稅六錢

右は師が淨土和讀を讀題として説教の好材料を與へらる

菅原如達師述

説教集錄 實價金十二錢 郵稅金二錢

右は勸化言々海及び、同後編勸化文選、都合六卷を縮刷出版せり、無常を觀し、道心起す詩歌譬喩因縁は編中跳梁飛はんとし跋尾舞はんどす、一讀を要すへきの書あり

觀無量壽經說演 德證寺故梅香師說教

淨土志求編 實價十四錢 郵稅一錢

大聖釋尊曠劫の昔より往來娑婆八千度御苦勞有せられたは何故ぞ惠に眞實の利を以てすると大經に説れた如く偏へに淨土三部經典を説演べて一切衆生を彌陀の淨土へ送り届け證大涅槃の悟りを與ふ爲の御辛勞なり別して凡夫往生の手本を觀無量壽經に御演説せらる今此の淨土志求編は故周防德證寺梅香師が觀經を讀題とし十九席に其大意を説教せられしものなり

眞宗大學林教授齊藤開精師著

佛教或問

全一冊 實價十錢 郵稅二錢

佛教の大意を説明せし書少しとせず、然れども本書の如く叮嚀に説明したるものを見ず、之れ本書が最も世人の嗜好に應じ第五版に及びし所以あり、本書は或る伯爵の依頼を以て大淵鉄然師が齊藤開精師に依頼せられたるを師が極めて平易に佛教の主旨を、數十條の問答となして著述せられたるもの也、佛書を見んと欲するものは先づ此書よりせざる可らず

前田慧雲師編述

通大乘佛教問答

全一冊 實價十三錢 郵稅二錢

大乘佛教は其教理深遠、一念三千と云ひ、諸法實相と云ひ、三諦圓融と云ふ、みな難解の深義にして、世人は多く其妙味ある所を願み

す、唯に世人のみならず道に入る人ど雖も、其門戸を窺ふて其堂奥に入らず、之れ其難解あるが故也、今前田慧雲師は、大乘佛教問答を編述し、其難解の文字章句には一々註解を加へ、尙ほ師が餘論として各宗を一貫せる大文章を載す

蓮如上 慧の燈

(縮刷) 全一冊

(かなつき)

實價十八錢郵税四錢

眞宗開山聖人より、第八代にまで蓮如上人出づ、上人は我國戰國時代に出誕せしめて、徳義地に落ち干戈鞘を脱したるの時、孤り彌陀他方の妙法を説き、凡夫出離の要旨を示し給ふ、特に諸宗諸山偏執の間にありて、淨土眞宗を再興し給ひしを以て、世に中興上人と云ふ、此書は上人御一代の草鞋竹杖、僻郷僻國に至るまで、經廻まししく行狀を詳記す且つ御一代の法話、詠歌をも漏れなく記載し法味相續の助縁とす、げに無漏の慧燈を掲げ

て、とほく濁世の迷闇をてらし玉ふものなり

妙好人傳

(三版) 全二冊

(かなつき)

實價二十錢郵税六錢

善人の徳となるとも悪人と交はるなかれといふ金言あり、これ凡情の遷り易きか故に所對の物からを撰へど云ふこと也、若し善人と交はり善人を友とするに至りては益を得ること少あからず、此書は善人中の善人、妙好人、上々人、最勝人、希有人と云はる、人々の傳を緝めたるものにして、目出度、淨土往生を遂げたる人々の善言佳語は編に滿ち、之を緝くことには芝蘭の室に入りたる心地して其嬉しさ云はん方なし、且つ此書の印刷ハ鮮明にして假名を附したれば、老人婦女子も苦もなく讀み得べし、

新妙好人傳 ● 平松師編
教誨美譚 上下實價六十錢 二冊郵税十錢

通三世因果實驗錄

實價十三錢郵税二錢

右は三洲本法院義讓師が三世因果生死輪廻の道理決して虚妄にあらざるを七十三ヶ條に別ち神儒佛の三教に依り一々實驗を以て示説したるものなり

島地暎雷師題辭

眞宗大意

實價 金八錢 郵税 金二錢

右は赤松連城師の眞宗大意。加藤正庵師の眞宗問答。前田惠雲師の眞宗綱要を。合本にせしものなれば。眞宗法門の概要を知るを得る良書なり ● 少年教會に摘當せり

八淵蟠龍師演説

宗教大會報道

實價 金六錢 郵税 金二錢

米國シカゴ萬國宗教大會に出席し師が卓見を以て現時歐米社會を觀察せられし所感と有志の求に應じ知恩院千疊敷に於て數千の傍聴者をして感慨せしめたる有益なる報道演説あり

毛利公衛夫人題歌

石村桐陰居士編輯

善女人傳

五葉 郵税 貳錢

此書は女人往生の本願に因み左の三十五傳を編輯し其典據最も確實にて一は以て歴史上の参考となり一は以て女子の龜鑑とするよ足る推古天皇 持統天皇 孝謙天皇 天平應眞 仁正皇太后 嵯峨皇太后 淳和皇太后 仁明皇太后 清和女御 後冷泉皇太后 堀河中宮 建春門院 青綺門院 待賢門院 等の善女人傳なり

海外宣教會々員松山綠蔭著

萬國宗教大會議

前後 實價 貳錢 郵税 四錢

此書前篇に於て日本が宗教大會に對する方策及運動より説き起し後篇に於て更に進て會場の景況並に其議論演説及び東西兩洋の宗教思想如何を明示せるものにして特に其説の公平なるを欲するより當時西洋諸新聞を翻譯せるあり或は直接に代表者其人に執る所あり

英國サーエドウキーンアーノルド著
鳥尾小彌太君題字 農學士中川太郎譯
赤松地城師校閱

亞細亞之光輝

卷二 郵稅二錢
ア氏一度釋尊の一代記を、流暢なる語句を以て出版せし以來、歐米各國の耳目を驚かし、佛教者は元より、何宗に係はらず之を尊重す、以て歐米人の佛教に對する、感情の如何を知るに足る、

鳥地隱雷師題字 佐々木惠雲編

近世佛教演說

實價金十六錢 郵稅金四錢
島地默雷師、赤松連城師、村上專精師、吉谷覺壽師、大洲鐵然師、齋藤開精師、中西牛郎氏、弘中唯見師、鈴木法琛師、加藤惠證師、德永滿之師、武田篤初師、井上圓了氏等の有益なる實地演說を筆記したるものなり、實に數百里の遠隔の地にありながら、近世諸大徳の演說を坐しながら、謹聽せられ得るは此書にしくはあし、

原人論講義

實價二十錢 郵稅六錢
宗密禪師、原人論を著す、言簡意密、蓋し佛教の全體を網羅すと云ふへし、故に之を解釋する、又困難にして古來辨明演繹するもの其數を知らず、然れども或は高尚に失して不辨を學徒に與ふること多太、岸上師佛門の碩學而も本書を講述するに當り、意密かに言安く専ら初心の領解の易さを要し、通俗の俚言を用ゆ、且つ巻尾には附録或問とし、本文外の疑問數條を掲載す

繪道德談話集

二冊 實價拾五錢 郵稅六錢
右は佛道話を繪入してたるものにて因縁上より、譬喩上より、宗密上より實地に行へるべき道德修身法より、而して中世の心學道歌及び金言數語を加へ、たれにても讀み易く解し易く、様態平假名付にて至極平和なる、實際道徳を増進する良書なり

七里恒順師述 日下密門筆記

念佛處世の用心

一冊 四錢 郵稅二錢
右は徳義と學識を以て有名なる博多の七里恒順和尙眞宗念佛行者の此世に處する心得を述へられしものなり

鎌田淵海述 青年 實價五錢 郵稅二錢

活演說

皮相に迷ふ勿れ、佛教の父母、佛教の年齒、佛教の組織、佛教の肥肉、世間學と佛教の相異、佛教の性質等の演題にて、佛教青年會の爲に佛教の大道理を演說せられしものにて、少年教會には最も摘當せり

日本鳥地默雷師序 獨逸スプハトラ此丘原著
日本蘭田宗惠君譯

佛教要論

全 實價金十四錢 郵稅金四錢
全篇、佛、法、僧の三寶に依て百七十問答を設け理解し難き所は一々(備考)を以て説明し通俗平易なる言語を以て佛陀の妙法は死物の學識にあらすして却て活動する所の清淨潔白なる眞理の泉源あることを説明したるの書なり蓋し眞宗教の信仰を支配する佛陀眞理の光輝全世界に遍滿したる各國人に安樂幸福及び解脱を待せしめんとする佛教興運の大勢を知るに足らん

御式文法話

實價六錢 郵稅二錢
正五位毛利元忠公題字
大内青樹居士題詩 明三慧師著
南條文雄師序文

御傳鈔簡要

實價六錢 郵稅二錢
附 七高祖並蓮師略歴
南條文雄師題字 江村秀山師序文
齊藤開精師序文 立雪英晋編述

佛陀之金言

實價四錢 郵稅二錢
佛陀の教へ、言々何々皆是道徳の標榜なり、然れども八万の法門、七千の經卷、人皆其意のある所を察せずして迷ふ者多し、本書は諸經卷の中より道徳上の金言を摘出し、毎句に通俗にして簡明なる解釋を附し、依て少年教會に摘要をり

說教演說砂石集

實價三十五錢 郵稅八錢
右砂石集は無住禪師の集録にして、道心の事蹟、古事因縁、凡そ佛教に關する、種々無量の、有益なる事頁を記載せる良書に付縮刷出版す

菅原如達述
三國説法大因縁集 實價金十錢
 合類 郵税八錢

右は表題の如く印度、支那、日本、三國に於ける佛教の如く因縁を網羅せる一大集録にして、此故事因縁を應用して、佛教の妙理を勸化唱導せしは、誰れか敢て仰信せざるものあらんや、講義演説々教等に從事し給ふ諸氏は、座側飲くへからざるの珍書なり

赤松連城師題 松山大現師著
眞人の鑑 木版半 實價金十三錢
 紙一冊 税金二錢

右は眞宗の信徒たる者、終身遵守すべき條項を、見眞大師之を十七條に録り示したまひしを、若者之を適切なる解釋と、確實なる學理とを以て之を解釋し、加ふるに一々親切なる譬喩と、因縁事實とを以て之を説明せしものなり、之を讀みたまふ諸公は、自行にも化他にも便益多かりん

勸學南溪師述

宗教一隻眼 合本 實價十二錢
 眞假三願高祖眼 郵税四錢

右は師が本典を講述するに五大法門を以て七祖の傳承高祖の集成とし一部六卷の大綱せられしを相堂範公師の請に應じ更に畧して其一端を記して本典研磨の便にせられしものあり

ばこの如來の正覺以前に何ぞ諸佛と云ふことあるべきや、この佛法爾の覺体からば何ぞ因地の修行有べきや、若然らば無始の覺体とは許すべからず、本有の覺体は何ぞ五劫の思惟あるや、本有の覺体よりなし玉ふ修行あれば永劫の勸苦も實の惱にてのあらざるべきや等の數十問答なり

前田慧雲著

眞宗教史序論 實價金十五錢
 郵税四錢

全篇を原理篇、組織篇、濫觴篇、系統篇、發達篇、の五篇に分ち、原理篇に於て、諸法實如十界緣起等の十節を立て、聖道淨土の一致に歸することを辨論し、組織篇に於て眞宗の組織即眞俗二諦の交渉關係を詳述し、濫觴篇に於て法門の緣起、釋尊の顯示を叙述して、兼て三部經典の主旨を明顯し、系統篇に於ては眞宗七祖の選定、并に七祖相承の法門一貫して畫一の如く然ることを論述し、發達篇に至て七祖の論格及び宗門の形貌變遷より、以て三經釋軌、法相施設の發達進化の概略を概論せり、

通俗
佛教百科全書 實價五十錢
 郵税十二錢

右原本は有名なる大行寺師の山海里(三十六冊)と淨心寺殿の百通切紙四冊と都合(四十冊)の書籍を増補縮刷せしものあり就中海山里の如きハ佛教者に取ては實に有益なる書なれとも巻多くして携帶に不便なるのみならず代價も隨て不廉あるを以て往々購讀の望を絶ち居らる、諸氏不少依て縮刷版す

源頭論 合一本 實價十五錢
 郵税四錢

先哲大坂華藏閣月笠師の著述にして其說蘊其文明晰宗學の秘奧說盡して餘蘊なし其目次の二三掲げば諸佛の最初は何なる佛なるや、阿彌陀如來は無始の覺体なりといはゞ十方衆生の本願も無始よりこれありや、無始の本願ならば無始にもまた諸佛の淨土を親見して撰擇し玉ふべきや、此如來すでに諸佛の本願なら

眞宗說畧 正價十錢
 郵税二錢

右は全編序論、本論第一章總論、第二章佛陀論(一節佛陀二節極樂三節名號)第三章衆生論(一節信心二節行業三節往生四節處世)第四章結論を以て終り特に結論には國家的宗教と眞宗の本和なりと言より遂に本願寺勤王事蹟を擧て之を證明せり

眞學匠著述目錄 正價六錢
 郵税二錢

學佛南針 正價六錢
 郵税二錢

右は大乗小乘實教權教聖道淨土等の同異を論したる書なり

眞學統源流略譜 正價六錢
 郵税二錢

前田慧雲著

大無量壽經大意 定價金二十錢
 郵税金四錢

右は眞宗正依の經典たる、大經の主意を平易簡明に釋述し、一章一節毎に和讃を挿入れ、而して解し難き處には、註解を施し、又兩旨の在る處は、問答を設て反覆論述せしものにして、眞宗教門の淵源を知らんと欲する者は一讀せざるべからざる書也、

前田慧雲著
●真宗問答 縮刷 實價金拾五錢 郵税金貳錢

全編一百四十餘の問答より成れり、初め真宗歴史の大畧を明し、叙述の間往々警醒の語を挿めり、次に眞俗二諦の法門を佛教の大体上より解釋を下して、斬新奇抜の議論頗る多し、後に餘論として、哲學上宗教上、道德上國家上より、耶穌教及びユニテリアンと比較對論せり、行文最も平易にして、何人も解し難からず、近來大好評の著書あり、

●真宗學匠年表 正價三錢 郵税金二錢

前田慧雲著
●真宗學苑談叢 正價金貳拾錢 郵税金四錢

右は著者が年來眞宗古今の碩學高德の履歷行狀が漸く湮滅に歸せんとすることを慨して世人の口傳に傳る所及び諸方遺老の談話を隨記隨錄せしものあり古今の重なる者を擧げば石泉、月珠、自謙、合玄、旭香、行照、普行、芳英、淨眞、泰岳、常音、慧海、道命、等の略傳、曇龍、龍前、雲嶺、慧航、巧便、等一行實大瀛、大乘、印定、不及、普英、栖城玄風、善護等の碑銘行狀、其他各師の著書等なり

勸學足利義山師述
●三帖和讃問答記 (活版) 正價卅五錢 郵税金六錢

右は三帖の御和讃の深旨難解の處を一々問答を以て了解し易く述へられたる書なり

寶地閣覺照師述 東陽閣圓月師校閱
●三帖和讃雁峰錄 半紙本 全四冊 正價一圓三十錢 郵税金十四錢

一等學師補 小栗栖香頂師閱
撰 詩 吉谷 覺齋師撰 (活版三冊)
●三帖和讃講述 定價一圓廿錢 郵税金十四錢

勸學東陽閣圓月師述 (全五冊)
●寶章論題 實價六十錢 郵税金十錢

前編五十題和紙活版(代二十四錢郵税金四錢)
後編四十題木版和紙(代三十八錢郵税金六錢)

●真宗佛性辨講述 正價金八錢 郵税金二錢

大乘實教の道理に依て佛性の義を説明して眞宗の教理も亦是と毫も差異あるものに非ざるの理を辨述したる書なり

○真宗列祖法門大綱 正價金八錢 郵税金二錢

右は眞宗七高祖立論の教義を述せられたるものなり

寶成院仰誓師著
●三帖和讃略解 (縮刷) 正價三錢 郵税金六錢

三帖の御和讃は吾祖師聖人の智慧報徳のため御製作をばされ吾等朝夕拜讀し奉る其文字平易にして其義深奥に其言近して其旨遠し是を以て古來此の御和讃を註解するもの多し就中寶成院仰誓師の略解は簡短にして然かも其深旨を審にし尤も了解分明なり

僧鎔師講述
●三帖和讃方軌 (薄用) 正價一圓二十錢 郵税金十二錢

島地 獸雷師電師
勸學東陽閣圓月師新著 (半紙本、全四冊)
●宗要百論題 定價一圓五十錢 郵税金十四錢

右論題は曾て大教校に於て、撰定せし課業論題なり、而して今に至て其蘊奥を尽せし著書出版せしものあるを見ず、然るに右書は現時宗學に於て有名なる、勸學東陽師が該博の識と、精練の學とを以てこれを著作せしものにして、又師が最も精神を盡せし所なり、古徳の未だ論及せざる卓說擲あからず

同 師 述 (半紙、全一冊)
●宗要百論題附録 實價三十錢 郵税金四錢

右は百論題の外、宗義に於て肝要なる論題二十二題を新に述す

大洲鉄然師題辭
勸學東陽閣圓月師著 (和本、全二冊)
●一卷鈔禾人錄 實價七十錢 郵税金八錢

大洲鉄然師題辭新著 勸學東陽圓月師述 文類聚鈔非已錄

文類聚鈔科段入

全三冊 實價五十二錢 郵稅六錢 半紙本

○文類の諸録書少きしとせず、然れども右圓月師の非已録は尤も最近の新著にして、而かも簡にして其解釋明了なる事は、前著數書に於て、既に實見せらる、所なり、

東陽圓月師述

一 諦妙旨談

二 諦妙旨談續編

實價二十錢 郵稅二錢 續編

島地黙雷師題言
勸學僧朗師述

前田惠雲師校訂

四帖疏記

全部十卷 半紙和本

●五卷迄出版済 ●當二月中金二圓郵稅四十錢
●本宗より四帖疏講録の世に出でざるは實に宗學研究者の遺憾とする所なりしが幸に諸師協議の上故勸學僧朗師の遺稿を訂正出版する事とされり

勸學月殊師述

(縮刷全三冊)

廣文類對問記

實價七十五錢 郵稅十四錢

武田篤初校閱佐々木狂介著 (和紙和本製)

諸子提要 (全三冊)

定價每五錢 郵稅十錢

右は本願寺文學寮漢文科の教科書として佐々木狂介氏が新に編纂せられしものにして周以後西漢に至る迄凡そ三十一家の文章を就き其要を採り其粹を抜きたるものなり

禿了教師述

各宗教略話 (全二冊)

實價二十錢 郵稅四錢

右は師が歐米各國へ、實地宗教視察の爲渡行せし日記中、各國宗教の尤も必用なる起源、及び現勢に付、實地探究せし畧話なり、●尙附録として洋行手續書類、各國金價比較及里程、船中所持必用品等を記載す、

赤松連城師述

勅語衍義

實價金六錢 郵稅金二錢

勸學善護師述 ●善海師訂正増補

選擇集指津録 木 (四卷迄) 版 (出來)

每卷 ●實價廿四錢宛 ●郵稅金四錢宛

吉水大師、關白兼實公の請によりて一たひ筆を呵して撰擇集十六章を草す、淨土門の骨目、深意幽致、鑽に窺ふへからず、故に古來の學者畢生の智腦を絞り之を解釋するもの多しと雖も煩に過ぎ略に失し學者の恨みとすること久し、善護勸學の指津録(俗に閑亭記と云ふ)は能く一局面を開き煩に過ぎず略に失せず、而も義理明哲、大師の深意を汲み得て且つ本書出版に閱を司教善海師に得たらば誤謬を

松島善護師講述 (縮刷全二冊)

三經眞宗要論

實價四十五錢 郵稅十錢

●本書は眞宗正依の經典たる三經并に七祖聖教の主要を論題にして通解せしもの也

故勸學内田寬寧著

(縮刷全二冊) 實價四十錢 郵稅六錢

禿了教師編述

道德の栞

實價金六錢 郵稅金二錢

右は佛教の五戒と、五倫五常とを合せ明教大師、智者大師等の明解を以て、道德の標準を示し、諸經論を引用して証明せり(かあつさ)

東陽圓月師述

勅語奉躰記

實價金六錢 郵稅金二錢

逆如上人御一代聞書

實價金八錢 郵稅金二錢

赤松連城師題歌 ●十林合章師著

見真大日の本

實價金五錢 郵稅金二錢

月の如く花の如きの口調を以て、直真大師御一代の行蹟を、法の花、松の春、黒染の袖、百夜祈願等の二十三章に分ち諷詠せしもの、大師降誕會に必用に付出版せしものなり

眞宗 雨夜の月

代價三錢 郵税二錢
三冊迄 郵税二錢

「彌陀願ひ者は雨夜の月なれや雲はれねども西のこそ行く」此書は此心を以て詠詠せし新體詩なり、新體詩大ひに發達し我國歌曲の中心點たらんとす、學童には學へや學へ、兵卒には進めや進めの音韻あり、佛教の少年子弟は此書の如きを以て音韻を學ばざるべからず書中載する所法の旅二河白道見眞大師、慧燈大師等の數十章

佐々木狂介著
●重修顯如宗主傳 實價六錢 郵税二錢

重智師かつて顯如宗主傳を著し寫傳を以て世に行はる、佐々木狂介氏、これを重修し評論を加へ附記を附し顯如上人の一代を明かにす、上人ハ石山の孤城により織田信長の難を防ぎて法蓮を紹く、眞宗の一大明師也、而してや、もすれを世に行はる上人の傳、上人を諱るもの少いとせず、氏其史料を本山の宿世に取り未開の間、未見の見を加ふるもの妙ながら

同人著
●新佛敎論 實價二十四錢 郵税六錢

新佛敎なる名目ハ、近來耳新しき言葉なり、されは氏の新佛敎論か、始めて世に現はる、や、議論百出之に賛同するもの、之に反對するもの、恰も井上氏が宗敎教育の、衝突論に於ける如き、有様なり、而して今や幾多の革新的、佛敎青年ハ勃然として地方に傳起し、之れ一に此著書の預りて力ある所にして、佛敎徒たるもの、一讀を要する書なり

- 組織佛敎論 實價三十五錢 郵税四錢
- 佛敎大難論 定價三十五錢 郵税六錢
- 世界三聖論 定價四十五錢 郵税六錢
- 宗敎革命論 定價三十錢 郵税四錢

伯魯勝安房公題字 西村茂樹先生序 神崎一作先生編輯

破邪叢書

全二冊 實價七十錢 郵税十二錢

抑も耶蘇敎衝突の呼聲一たび我敎育世界に發せしより、其勢大に敎學の天地を震撼して、普く朝野の注意を喚起せしと雖

熱田窓知師校閱●朝日保壽著

●試補 四論題略辨 代價三錢 郵税二錢

常盤井敏子殿 大谷文字題歌 實價十六錢 郵税二錢

●心 露 實價十六錢 郵税二錢

●木佛畫像論 代價金拾貳錢 郵税二錢

●佛敎德育教科書 實價十三錢 郵税二錢

●宗敎大勢論 實價十六錢 郵税四錢

●佛敎德育教科書 實價十三錢 郵税二錢

も其結果の他日に及ぼせる影響に至ては、蓋し之れより甚きものあらん、愛國の士豈今より其腹を丹さ、るげんや然るに從來の頑強偏見に數十年の前後於て之をト知し、耶蘇敎に對して先芒離離たる卓説活論、實に多く後進を警戒するもの亦少いとせば是れ今日我國人の最も注意を要する所なり、今斯著書は神か此に見る所ありて、耶蘇敎が我國及支那に入りたる初より今日に至る迄、之に對する諸家の論議を蒐輯せしものなり

●耶蘇敎の末路 實價十六錢 郵税四錢

●眞理金針 實價二十錢 郵税四錢

●佛敎講話集 實價三十錢 郵税四錢

夏期講習會は、吾佛敎徒の新なる事業たり、此講習會に對して、希望を屬するものは、只に講習員其人に止るべからず、天下の人士は普く之に望を屬せり、故に佛敎界有名者、殆んど網羅して之れが講話たり、全國多量の學生は之を講話者たり、講話の全力を注いで、其の効の完きを望み、講習員は自ら奮勵して、其意を盡さん、此間に完成せられ、講話十五篇初らくも佛敎研究に志ある者ハ、之によりて大に得るところあるべし(廿六年度分)

佐々木狂介師
校閱並序
佐々木翠村
編述並跋

日清 交戦 法の 光

菊判大形
二百四十頁餘
實價 金二十錢
郵税 金六錢

烈風激雨東洋の天地は今や暗濤濤々、我大日本帝國は、義兵を擧げて隣邦の難を救ひ、頑冥不靈の清國を打撃す、此時に當りて我佛教者は如何に處したりしかを知らざる可らず、此書は吾眞宗が、其根本的教義を應用し、國家の爲に盡したる、事蹟を詳記せるもの也、二諦相資と云ひ、王法爲本と云ふ、之を實地に國民の頭上に垂れたる狀を寫す、且つ交戦の實記は詳細を期し、龍圖虎奮の狀を寫す、其叙事の大畧を示さば、先づ佛教と戦闘の關係より説起し、朝鮮の内亂、三國交渉に及び、筆を轉じて我眞宗の事業を詳記す、両本願寺法主殿の參内、恤兵獎勵、軍隊慰問、此間の日誌概略、御親教御直論等は、複演と共に記し、尙ほ一方には成歡、平壤の陸戰、豐島黃海の海戰、九連城の陥落一も洩すなく、伊藤總理大臣の政府方針の演説を初め、臨時部長大洲鉄然師、赤松連城師、瀧美英師、小野島行憲師、暉峻普瑞師、小栗栖香頂師等の演説、説教は滿篇に陸續たり、慰問使僧の入韓日誌、朝鮮佛教大意等、攝めて此篇にあり、此間の消息御購求の上ならんは知り難し

新御直論並に小野島行憲師演説

●王法 實價二錢 四冊迄
●佛法 御法の花 實價二錢 同稅

右は大善知識此度の大事變に付、眞俗二諦の教旨により懇篤なる新御直論の御趣意を小野島師本山の命により演説せられたる大意也

石河仲將師述並に序文 同師肖像入 信心獲得御文説教

●實價金十三錢 郵稅金二錢

凡夫往生の鏡たる御文章、特に信心獲得章の御文は、文明十八年三月十一日、紀州清水浦の紀祿大夫の宅に御泊りのとき、其處の同行作四郎、大病にて直々御教化をうけがたきゆへ、慶問坊の紹介にて御願ひ申したれば、早速に御筆を染られ、命且夕にせまりたる大病人への御勸化なれば、眞最初から信心獲得すと云は第十八願をこゝろするあり等と、御諭しあされたる、大節な御消息なり、今其御消息を讀願とし、二十一席に分ち譬喩因縁、道歌等を引用し誰人にも能く解し、法義相續の助縁に共せしもの也

●未代无御智文説教

●實價金二十八錢 郵稅四錢

龜山法因寺溼美契華師述

大洲鉄然師赤松連城師演説
●日清 實價十二錢
●戰爭 實價十二錢
●大洲鉄然師演説 實價二錢 四冊迄
●軍隊 實價二錢 同稅

現生十種の益説教

●實價十三錢 郵稅二錢

福田行忍師述 勝山善巧師述
●現生十種の益 實價十三錢 郵稅二錢

信の巻に云く、金剛の眞心を獲得すれば、横に五趣八難の道を起へ、必ず現生に十種の益を獲、何者か十とする、
一には眞實護持の益
二には至徳具足の益
三には轉運成善の益
四には諸佛護念の益
五には諸佛稱讚の益
六には心光常照の益
七には心多動喜の益
八には知恩報徳の益
九には常行大悲の益
十には入正定聚の益有り
今此の十種の益に付て、一益に二席つ、都合二十席に分ち、古事因縁、譬喩或は包諺を以て、明了に説教せられしものあり、

●龜山法因寺溼美契華師述 (上卷)
●二帖目 實價廿八錢
●第四通 御文説教 郵稅四錢

●同 下卷 同

●聖人 實價廿八錢
●一流 説教聞書 郵稅四錢

御聖教之部

● 校點淨土三部經

上等折本 四冊 紙入 實價七十五錢

● 三部經

折本一冊 紙入 實價三十二錢

● 同

政指折本 紙入一冊 實價六十八錢

● 同

烏ノ子摺 實價三十八錢

● 同

烏ノ子摺 實價三十二錢

● 同

中形折本一冊 實價六十八錢

● 同

政指折本 一冊 紙入 實價六十八錢

● 同

烏ノ子摺 實價三十八錢

● 同

烏ノ子摺 實價三十二錢

● 同

極小本 實價二十錢

● 阿彌陀經

實價三錢

● 同

實價三錢

● 標註三部經

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

● 同

實價二十二錢

